令和８年度第１回橿原市こども・子育て会議 会議録

日　　時：令和８年 10 月１日（木）　16 時 00 分から 17 時 50 分
場　　所：橿原市分庁舎（ミグランス）　４階　コンベンションルーム
出席委員：天根委員、石井委員、伊瀬委員、岡澤委員、米田委員、田中委員、原田委員、
　　廣田委員、桝谷委員、三浦委員、森川委員、森永委員、山本委員
欠席委員：西口委員、松井委員、弓場委員、吉川委員、寄谷委員、米澤委員
事 務 局：亀田市長
　　加護理事（こども部担当）
　　【魅力創造部】山口地域振興課長
　　【こども部】吉川副部長兼こども政策課長、溝上副部長、岩本副部長
　　谷口こども家庭課長、小西こども未来課長、
　　栗原統括調整員、山下主査、平井主査
　　【福祉部】宮田福祉総務課長
　　【教育委員会事務局】土田教育総務課長、鶴田学校教育課長、
　　宮田人権・地域教育課長
傍 聴 者：０名
配布資料：次第
　　こども・子育て会議委員名簿
　　【資料１】重点施策の進捗管理一覧
　　【資料２】関連事業の実施状況
　　【資料３】教育・保育、乳児等通園支援及び地域子ども・子育て支援事業の実施
　　状況（令和７年度年間）
　　資料１・２の見方
　　【当日資料】座席表、学校給食献立表

次　　第：１．開会
　　２．市長あいさつ
　　３．議事
　　（１）橿原市第１期こども計画進捗報告
　　① 重点施策の実施状況について
　　② 関連事業の実施状況について
　　③ 教育・保育、乳児等通園支援及び 地域子ども・子育て支援事業の
　　実施状況
　　４．その他
　　こども施策等に関する意見交換 について
　　５．次回の会議の日程について

６．閉会

１．開会

２．市長あいさつ

（出席状況の報告）
（委員の紹介）
（資料の確認）
（会議の公開について）

３．議事

・山本会長
それでは、次第に沿って議事を進めていきたい。円滑な議事進行に協力をお願いする。
では、議事（１）①②③について併せて説明をお願いしたい。

議事（１）について、資料１・資料２・資料３に基づき事務局より説明

・山本会長
関係課から説明報告があった。
この報告について、質疑、意見等あればいただきたい。

（質疑等なし）

・山本会長
それでは以上で本日の議事は終了した。
続いて、次第「４その他」について事務局より説明をお願いする。

４．その他
こども施策等に関する意見交換 について

・事務局
それでは議事４、その他について説明する。
今回、初めての試みだが、この「こども・子育て会議」には、学識経験者、保護者代表、保育・教育関係者、民間団体や地域で活動する人、そしてこども・若者代表など、様々な立場でこども・若者に関わる皆様にお集まりいただいている。

そこで、多様な立場や専門性、当事者としての視点を持つ皆様が一堂に集まる機会であるため、市からの報告や議題について意見を求めるだけでなく、委員同士が日頃それぞれの立場で感じていることや、こども・若者を取り巻く課題、市の施策に対して感じていることなどを自由に意見交換できる時間を設けることとした。
特定のテーマや結論をあらかじめ設定せず、委員の皆様から話題を提案いただき、それぞれの立場で意見や情報を共有していただくことで、委員相互の理解を深め、今後の本市のこども・若者施策の参考にさせていただきたいと思う。
それでは、引き続き進行は会長にお任せする。

・山本会長
ただいま事務局から趣旨の説明があった。
せっかくこのような会議の場に様々な分野でこども・若者に関わる皆様方に集まっていただいておりますので、この場を借りて意見交換を行うとともに、お互いに認識理解を深めたいと思う。
こども・若者にまつわること、どのようなことでもよいので、この場で意見を伺ってみたい内容があれば、挙手をお願いする。

・森永委員
橿原商工会議所代表として本日は 2 回目の参加となる。
地方の事業者向けのマーケティングセミナーを橿原商工会議所で何度か実施したご縁で、この会議に参加させていただいている。
自身は株式会社近鉄百貨店・あべのハルカス近鉄本店に勤めており、長らくマーケティングを主に担当してきた。
百貨店で取り組んでいるこども向けの施策は多くはなかった。皆さんもご存知のとおり、百貨店の主要顧客は 50 代～70 代の高齢者が多いが、これからのこどもたちが大きくなって百貨店に来てもらいたい、こどもの成長も支援したいと考え、子育て支援とこどもの成長支援という観点から百貨店で取り組んでいる施策を2つご紹介させていただく。
一つ目は、こども対象のイベント・催事として「あべのこども博覧会」についてである。
この博覧会は、遊んで学び、社会勉強をする機会として、将来の社会や仕事のヒントを少しでも見つけてもらえたらという想いで実施している。
例えば、遊びの面として、ワークショップでビーズアクセサリー作りやクリエイターによるものづくり体験を提供し、達成感を味わってもらう。
学びの面では、お仕事体験で社会勉強をしてもらうため、百貨店内で放送業務や案内所業務の体験機会を提供している。また、近隣の消防署・警察・天王寺動物園と連携し、様々な社会の仕組みを知る体験を提供している。
夏休み期間（7 月末から 8 月上旬）に開催し、多くのこどもに体験機会を提供している。
二つ目は、子育て世代の支援コミュニティとして「ハルカスキッズクラブ」を作っている。
以前は紙のカードで会員募集をしていたが、現在はデジタル化しアプリで会員登録を受け付けてい

る。「KIPS カード」会員を対象に、子育て世代が買い物を楽しめる環境を整えている。
現在約 9,000 名が参加しており、対象年齢は 0 歳から小学校 6 年生までである。
会員は小さなこどもを連れて買い物に来て、こどもとお母さん・おばあちゃんなどが大切な時間を過ごせるよう、駐車場 2 時間無料の優待や、誕生日には 1,000 円分のクーポンをアプリで配信するなどの特典を提供している。
不定期に特別イベントやワークショップへの招待なども行い、子育て世代のコミュニティ作りを進めている。
その他、ベビールームと授乳室を設置し、赤ちゃんを連れたお母さんが安心して授乳・休憩できるスペースをハルカスのこども服フロアに設けている。
紹介した施策はあべのハルカスでの内容とはなるが、橿原店でも同様の取り組みを展開しており、「夏休みこども博」を開催している。様々なところにご協力いただき、こども達に色々な仕事や会社、社会を知ってもらう機会を提供している。
私はあべの本店に勤めているが、橿原市に 50 年以上住んでおり、市を非常に大切に思っている。
先日、世界遺産に選ばれたこともあり、こどもたちにその世界遺産登録の意義や市の素晴らしさを知ってもらう機会を今後設けたいと考えている。
市長もおっしゃったように、こどもたちが「橿原市出身だ」と胸を張って言えるような市になっていけばいいと感じている。
私自身、今後は地域に根付いた仕事・市に貢献できるような仕事をしたいと考えている。

・山本会長
森永委員からは、こどもへのイベントということで 2 つの取り組みをご紹介いただいた。
他にご意見等はあるか。

・伊瀬委員
私からは 3 点お話させていただく。
まず一つ目として、最近は災害が非常に多く発生している。
私たちは認定こども園を運営しているが、小学校や中学校は警報が出ると休校になる。私たちの認定こども園では学童も併設しているが、小学生の場合、学童もお休みとなる。
警戒レベル 3・4 となると非常に厳しい状況となる。保育園は働く人々を支えるために常に稼働し続けている。保育園で勤務する職員にもこどもがおり、この職員たちも帰していかなければならない。
実際、8 月下旬からの災害を受けて自身の園に当てはめて考えてみると、職員は常時 40 名弱いるが、そのうち半数の 20 名程度が子育て中の保護者である。警報が出ると学校は閉校となり、こどもたちの行先がなくなるため、職員は帰らざるを得ない。職員半分の人数では、250 名前後のこどもたちの保育は不可能になる。さらに警戒レベルが 3 から 4 に上がると、今度は職員が帰宅できなくなる可能性もある。
警戒レベル 4 になると市町村は避難所設置などを行うが、働く方々にとっても警戒レベル 3 から 4 に上がりそうとなった場合には、小学校・中学校、また就学前施設においても閉鎖させていただくな

ど、点ではなく面的な展開をしていかないと、それぞれの方々の安全を守れない。
全市的に取り組んでいただき、ぜひ危機管理課などに面的な展開をいただきたいと思う。
保育園・こども園としては、こどもたちをどう安全にご家庭に帰していくか考えなければならない。
大阪へ勤務されている保護者の方が帰ってくる場合、電車が止まってしまうと、こどもたちを誰が迎えに来てくれるのか。
こどもの安心・安全を考えていくためには、保育所担当課のこども未来課だけではなく、市としての面的な展開が必要だと考える。
二つ目は、こども性暴力防止法についてである。
こども政策課が取り組んでいることと思うが、橿原市としての姿勢を持つ必要がある。民間園だけが積極的に取り組みや周知を進めると、保護者から何か事件でもあったのかと逆に不安を与えてしまう可能性がある。
こどもの安全を考えるのであれば、義務教育課程である小中学校も含めて、何らかのメッセージを出せるようにお力添えいただければと思う。
三つ目は、私は先日生成 AI の研修を受講した。危険性はあるものの、非常に展開が早い分野である。生成 AI は制度周知などに有効であると感じた。
ある企業では生成 AI 理事の設置を真剣に議論しており、人間の感情が判断を妨げる場面もある中で、AI がそのフィルター除去に寄与できると考えられている。
生成 AI は情報を統合していくというのは得意分野であるため、市のこども・子育て会議においても、将来的には、「生成 AI 委員」というのもあってもよいのではないかと思う。

・山本会長
３点のご提案、ご意見を頂戴した。非常に大きな問題である。

・事務局
こども性暴力防止法について、委員がおっしゃったとおり、足並みを揃えていくということは、確かに重要だと考えている。
周知等遅れている部分もあるが、こども部を中心とし、人事課も交えた市長部局、また教育委員会とも足並みを揃えて連携し、進めていきたいと考えている。

・事務局
災害時における保育所等の対応について、市で整理しているところである。
今までは保育所等は警報が出ていてもこどもを受け入れる運用でやってきたが、昨今の災害の状況を見ていると、このままの運用でこども達を災害から守ることができるのか、というところで、まずは公立園において、警戒レベルがこうなれば休園とするという基準を作成しているところである。
今後、公立園の保護者に周知を図るとともに、私立園の皆様へも共有させていただき、何時であれば給食を提供できるかなどの細かな運用の部分は各園で検討いただく必要はあるが、大枠の部分は市全体としてあわせていけると考えている。

もう少ししたら出来上がるかと思うので、お待ちいただければと思う。

・伊瀬委員
こども未来課だけが頑張るのではなく、危機管理課にも頑張っていただければと思う。

・山本会長
他にご意見等はあるか。

・岡澤委員
私は保育、保育者の養成、小学校教諭の養成に携わってきた。
市からの各事業の実施状況報告を受けた全体的な感想として、こどもの居場所、こども食堂、放課後児童育成など、子育ての拠点が多数設置されており、こどもの居場所づくりを支える取り組みが盛んに行われていると感じた。また、保護者の不安にも対応し、家庭を支えることにも注力されていると感じた。
これらの取り組みが重要である理由を考えた時に、家庭の教育力が低下している点にあると思われる。具体的には、家庭や親が不安定であったり、こどもを理想的に育てたいという想いと、それが実現できずなぜできないか分からない状況などがある。この家庭の教育力をあげていかないと、ますますこどもの居場所や子育て拠点を増やしていかないといけなくなる。
各家庭を支えていくだけではなく、根本的な課題である家庭の教育力を養っていかなければならない。
報告の中でみさせていただいた食育についても、本来であれば、こどもたちが家庭でちゃんと食べられるかなという話であり、食育とは本来は家庭で行うべきものである。しかし、昨今はその力が家庭にないため、学校給食頼みになってしまっている部分がある。
各イベントや取り組み、居場所などの中で、ただ経験するだけではなく、その経験の中でどういうことが分かったか、どういうことが面白いと思ったか、次はどうしようと思ったか、という目に見えない力・非認知能力がちゃんと養われているのかを考えていく必要がある。
ただ居場所を提供するだけ、こどもたちを箱の中に入れるだけではなく、その中で何が生まれたのかを把握するような報告がもらえたら嬉しいと思う。
イベントの参加者の数や量ではなく質について、こども達の中に何が生まれたのか、それぞれ違うと思う。その生まれたものが、次のこどもあるいは次の保護者を変えていく。
居場所いっぱいあったね、という経験だけをただ積み重ねるのではなく、目に見えないものとして何が生まれたのか。目に見えないものなので報告も難しいが、それが一番大事なことかと思う。
それらの積み重ねで、次はこういうものはどうか、次はこのように環境を変えてはどうかと、次に繋がっていくと思う。

・山本会長
家庭の教育力をどうすれば回復できるのか、また、非認知能力をどうすれば養えるのか、ということ

も含めてご意見をいただいた。
他に意見等はあるか。

・天根委員
市長から冒頭お話があったように、こどもは未来の宝であり、行政としても率先して取り組む必要があると思われる。
一つ目に、先ほどから様々な取組が紹介されたが、多くの取組が行われていることにまず感謝する。
ずっと以前の話にあるが、観光担当課に対して、机上で観光行政はできない、実際に歩いて現場を見て何が必要かを把握しながら取り組むべきだという提言をしたことがある。
管理や指導に回るのではなく、現状を把握しに行く姿勢が必要である。
例えば、昔は靴減らしの同和教育ともいったが、机上で行政を行っても現場の実情が分からない。
担当分野の現状や関係者の考え方を十分に把握することが重要だと感じている。
例えば、市の報告の中でヤングケアラーの問題が取り上げられた。
これまでは美談・親孝行として評価されてきたが、「子どもの権利条約」や現代的な人権の観点から見て、それが美学なのかは疑問である。ヤングケアラーが必要となるような社会の根本的な課題の解決までの支援策を講じるとともに、こどもたちがケアをしなくてもすむ社会を作るということが重要である。
出席している課以外の課も含めて、全庁的にどのような子育て施策が必要かということを考えて取り組んでいってほしいと思う。
またヤングケアラー以外にもこども食堂の取組がある。ボランティア主導でまちづくりの発想を取り入れた新しい形で取り組んでもらうのは非常にありがたいことであるが、こども食堂を作らないとならないという社会問題も無視できない。
こちらも全庁的に問題に取り組んでいっていただければと思う。
子育てがしやすいまちには人が集まり、学校教育やこどもに関わる事業が活性化し、結果として商業が繁栄し市全体が活性化する。
したがって、子育てを中心としたまちづくりに協力して取り組んでいくことが必要である。
行政はまず足で回り、実態に即した計画を立てるべきであり、また行政だけでは物事は進まない。
行政と民間の活力を結び付け、対立せずに協働で橿原を作り上げる仕組みを構築できれば、より活発なまちづくりが実現すると思う。

・山本会長
こども施策について全庁的に取り組んでいただけたらというお話であった。
他にご意見等はあるか。

・岡澤委員
学校教育課のいじめ対策―いじめ・不登校対策等生徒指導事業（資料Ⅰ Ⅰページ目 No52）についてである

いじめをした子と、いじめられた子がいるが、いじめられた子についてはもちろん悲しい話であるが、一方でいじめをしたと認知された子に対する学校の対応がハラスメントに近いものになってしまい、いじめた子が不登校になる事例がある。
その事例では、学外の事象を原因とするものだったが、そのため、学校としてはあまり調査をせずに対応をしてしまったということであった。
学外の事象も十分に調査をする必要があることを教員全体へ周知をお願いできればと思う。
学外でこどもは色々な場所で過ごす。
例えば、こども食堂や放課後児童クラブなどが増えれば増えるほど、学外でのいじめ事象が多くなる可能性がある。
学校外で起きたことだから、ちょっとした喧嘩だから大丈夫、と軽視してしまったことで、後に大きな問題となり、いじめをしたこどもが不登校になるという結果となってしまった。
いじめのハードルはとても低く、早期発見が重要であり、慎重に対応しなければならない。
報告書に記載があるアンケート等の実施について、学期別にアンケートを実施し、「嫌なことがなかったか」などの質問が設けられていることと思うが、こども全員が記入するため、たくさんの事象があると思う。すごく重要な事象があったり、ちょっとしたこととして書かれていても実は重要なことであったり、またちょっとしたことなのにとても重要なこととして書かれていたりする。
アンケート結果を整理し、教員が見逃さない体制を整える必要がある。
先ほどの事例では、2 年生の 2 学期と 3 学期に同じこども同士で小さないざこざが起きたが、教師はそれを同じ事象と認識せず、3 年生のクラス編成で同じクラスにしてしまった。結果、いじめられたこどもは「同じクラスにいきたくない」となってしまった。
アンケートには重要な情報が含まれる可能性があることを認識し、学校内外を問わず、すべての事象を見逃さないようにすることが必要だと思われる。

・事務局
ただいま、いじめ対策についてご提案いただいた。
アンケートの方を実施しているが、学校では積極的認知ということで、件数にとらわれず、どんどんこどもたちに、こどもたちがいじめと感じているものは積極的に認知していくということで、かなりの件数が上がってくる。
特に小学校・低学年については、いじめといじめでない事象との境が曖昧であるため、かなりの件数が上がるが、その上がった件数について一件一件、担任等が丁寧に聞き取りを行い、見逃さないように、深刻化しないように、早期発見・早期対応に努めているところである。
先ほど委員がおっしゃった、学校外の事象については、かなり対応が難しいところである。
最近は SNS やネット等によるいじめも見られるため、特に学年が上がってくると、いじめられているがそれを周りに発信できない、そっとしておいてほしい、という生徒もいることも事実である。
そういった声にならない声を拾うために、匿名での SNS 相談を学校教育課で受けており、こういうことがありました、ということを相談できるような窓口を開設している。
さまざまなアンケートや SNS 相談等を活用し、さまざまなチャンネルでこどもたちが SOS を発信し

て、こちらがキャッチできるような体制を整えるとともに、学校内のことに限らず、学校外の事象も含めて、いじめの事案については、学校で調査・対応していくということも併せて周知していきたいと考えている。

・山本会長
他にご意見等はあるか。

・伊瀬委員
私は橿原市に通い始めて18年になるが、先日 NHK の番組「ブラタモリ」で藤原京が世界遺産に登録されたことが取り上げられており、初めて藤原京のすごさを知った。
昨年、市制70周年を迎えた折に、中学生のこどもたちが立派なスピーチをしていた。
さきほど森永委員からのお話にもあったが、こどもたち、特に中学生にアウトプットの場を作ってあげることも必要だと思う。
20年前、ある大学の学生が藤原京のCGを作っており、大変好評であった。
今の中学生であれば色々なことができるのではと思う。
中学生が藤原京について人に伝える取組みも一つである。
また、例えば、近鉄八木駅前にはこども広場があるが、こども広場から電車がよく見える。
ひのとりや伊勢志摩ライナーが通るとみんなわーっと手を振っていて可愛い光景である。
私が小学生の頃は近鉄バッファローズがあり、駅前でこどもたちにトランプを配っていたりもしており、当時のこどもたちには憧れ感があった。こどもたちは憧れ感が欲しいんだろうなと思う。
家族と一緒に参加できるような企画があればと思う。
先ほど岡澤委員がおっしゃったように、家族が壊れている現状を感じることも多い。こども園や保育園では“子育てしているより仕事している方がよい”といってこどもを預けていく保護者もおり、胸が痛む。
私たちは家族というものを上手に提案しなければならないと日々悩んでいる。
私たちも今一度家族って何なんだろうと、一般的には社会の一番最初の一集合体ということもあるが、そういった伝え方の手法などについて、何らかの形でまたこのこども・子育て会議などでご教授いただければと思う。

・山本会長
イベント等への提言、また、家庭とはというご提言であった。
たくさんのご意見をいただきたいが、ここにこども・若者代表の委員に出席いただいている。
日ごろ感じていること等、何でも結構なのでご発言いただけるか。

・森川委員
最近の出来事として、友人関係（女子2人の間）のトラブルが原因で起きた事例についてお話させていただく。

自身は今、高校 1 年生（6年制の中等教育学校の4年生）だが、中学1年生の頃からずっと続いている案件で、一方の女子が長期間不登校になっていた。不登校の子は中学3年生から高校1年生に上がるときに転校してしまったが、そのタイミングで二人が会わなくなるのでいじめ問題は解消されると思っていた。
しかし、最近、転校した女子が原因で、トラブルとなっていた女子が恋人と別れてしまったという話があった。
普段は、普通に食事を共にし笑い合う女子が、一方がいない時に他の生徒に対して「あの子フレネミーだよね」などと悪口を言うことがある。
こうした隠れたいじめや嫌がらせは、教師にとって見抜くのが非常に難しいと思う。
教師だけが単独で介入するのではなく、当事者やその友人たちと協力して、いじめや友人関係のトラブルを解決できればいいなと思う。
また、SNS に関する問題・トラブル対策として、講師が来てくれたり、ビデオ講義などにより注意喚起をしてくれることがあるが、そこじゃないな、と思うことがある。
メールや LINE、Instagram などで DM や変な投稿をしてしまってギクシャクするなどの話をあまり聞かない。当事者でしか分からないことがたくさんある。
たとえば、文末に「w」や「草」などを付けるが、それがあるのとないのでは印象が大きく変わる。
また、注意喚起の方法についても、無理やりやらされるのではなく、こども達たちの主体性が大事である。
専門的な人が来て講義をするだけではなく、探究などの授業を活用し、注意喚起コンテンツを作ってみたい人を学校内で募るなど、学生の主体的・意欲的な活動を通じて注意喚起を行うことで、より効果的な取り組みとなるのではないかと思う。

・山本会長
伝えたいことがよく伝わってきた。
こども達が中心となって、こども達が自ら取り組むことが大事だというお話をいただいた。
最後に、これまでの委員の方々のお話やご意見を踏まえ、亀田市長からお話をいただければと思う。

・亀田市長
本当に限られた時間だったが、貴重な意見を多数いただいたことに感謝する。
橿原市は今年で市政 70 周年を迎えており、この記念すべき 70 周年の年に世界遺産に登録された。世界遺産に選ばれるまちは稀で、全国で 27 件目、うち 4 件は奈良県に集中していることから、都道府県ごとに一つもないというほど数が少なく、ハードルが高いものである。
このような世界に認められる世界遺産が橿原市にあることを活用し、こどもたちに知ってもらい、誇りに思ってもらうべきだというご意見であった。
また、防災に関してや、こども性暴力防止法について、伊瀬委員からは担当課のみで取り組むのではなく、関係課と連携して取り組んでほしいというお話をいただいた。天根委員からも同様に全庁体に取り組むべきというご意見をいただいた。橿原市は「子育てしやすいまち日本一」を目標に掲

げており、まだまだ足りていない部分はあるかと思うが、全庁的に取り組むという意識は広がっていると感じている。本日は子育て・教育に関わる課が中心に出席しているが、建設部局、環境部局、スポーツ部局など多様な部局にこども・子育てという概念はあると認識している。
全庁的にしっかりと取組みを推進するようさらに努めていきたいと思う。
また、非認知能力やいじめ、家族というテーマについてもご意見をいただいた。
こどもを取り巻く環境を改善することが地域づくりに繋がっていく、大きな視点でみても子育てに力を入れることは非常に効果的だと思われる。
どの施策も橿原市にとって重要ではあるが、こども・子育て支援、教育に力を注いでいくということは、橿原市にとって有益であると考えている。
最後に森川委員からもまさに若者からの視点でのご意見をいただいた。
なかなか普段はそういった視点でのこども・若者の意見を聞く機会は少ない。
このこども・子育て会議は多様なメンバーが集まり、様々な視点からご意見がいただける場であり、幅広いご意見をいただき非常に参考となった。
子育てしやすいまち日本一を掲げることで意識が高まると思っており、厳しい指摘もありがたいと思う。ひとつひとつ課題をクリアすれば、子育てしやすいまち日本一に近づくと思っている。
今後も様々な意見を受け入れ、取り組みを着実に進めていく。
いただいた意見をもとにできることから進めていきたいと思う。
今後ともよろしくお願いする。

・山本会長
それでは皆様、貴重なご意見をいただき、また長時間に渡り、御礼申し上げる。
今後も本日出た意見を参考に橿原市のこども・若者が健やかに成長していく手助けとなる支援に繋げていただければと思う。
以上をもちまして審議を終了させていただく。それでは事務局にお返しする。

５．次回の会議の日程について

・事務局
最後に事務局から次回会議の日程を連絡する。
次回は令和9年2月25日（木）の午後4時から開催予定であり、会場は本日と同じ分庁舎4階コンベンションルームを予定している。
次回会議の議題は、橿原市第1期こども計画の令和8年度上半期における進捗報告等とする。
以上をもちまして、令和8年度第1回こども・子育て会議を終了する。

６．閉会